

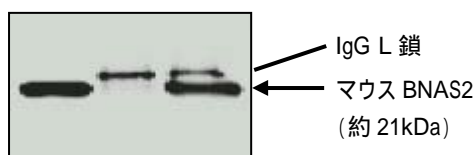
抗 マウス BNAS2 ポリクローナル抗体

BNAS2 : BASH N terminus associated protein 2

B 細胞特異的アダプタータンパク質である BASH (BLNK/SLP-65) は、抗原受容体 (BCR) シグナルによるカルシウム系及びMAPキナーゼ経路の活性化に必須であり、B 細胞分化・活性化に重要な役割を担っています。また、BASH はアダプターとして様々なシグナル因子と結合し下流へとシグナルを伝えますが、中でも機能的にも重要な BASH の N 末端側に結合するタンパク質である BNAS2 は、細胞質内に局在し、BASH の機能を促進することが示唆されています。

本抗体はマウス BNAS2 の機能解析に役立つとともに、抗原受容体シグナル経路の研究にも有用であると考えられます。ウエスタンブロットティング、免疫沈降及び免疫細胞染色に使用可能です。

容量	25 μ g (100 μ L/vial)
形状	ウサギポリクローナル抗体 0.25mg/mL、凍結品
バッファー	PBS [2% ブロックエース (安定化蛋白)、0.1% proclin 含有]
保管方法	- 20 以下 抗体を低濃度にて冷蔵保管されますと、失活する恐れがあります。 融解後は 4 で保存し、お早めにご使用下さい。 また凍結融解を繰り返すことは避けて下さい。
製造方法	マウス BNAS2 の部分ペプチドを免疫して得られたウサギの抗血清より、ペプチドアフィニティーカラムにて精製。
使用濃度	ウエスタンブロットティング: 1 ~ 2 μ g/mL 免疫沈降法: 1 μ g 免疫細胞染色: 1 μ g/mL



免疫沈降後のウエスタンブロットティング像

Sample : T7 タグを付加したマウス BNAS2 発現ベクターを導入した Cos7 細胞の抽出液

抽出液のまま
ウサギ IgG で免疫沈降したもの
抗マウス BNAS2 抗体で免疫沈降したもの

(各 Sample をフィルターにプロットした後、抗 T7 抗体により検出した)

提供 : 東京理科大学 生命科学研究所
今村 泰弘 先生
北村 大介 先生

抗 マウス BNAS2 ポリクローナル抗体

BNAS2 : BASH N terminus associated protein 2

【参考文献】

1. Imamura Y. et al. : J Biol Chem. 2004;279(25):26425-32
2. 北村 大介 : 実験医学(増刊) 2001:19(5)
3. Hayashi K. et al. : Proc Natl Acad Sci USA. 2000;97(6):2755-60

製造元

 株式会社トランスジェニック

〒650-0047 兵庫県神戸市中央区港島南町 7-1-14

TEL: 078-306-0295 FAX:078-306-0296

URL:<http://www.transgenic.co.jp> techstaff@transgenic.co.jp